提言6

環境拠点としての学校づくりへ

学校が地域コミュニティの中心へと変わる中で、環境拠点としての学校づくりが求められています。「省資源・省エネルギー・リサイクル社会」をめざす環境教育のセンターが学校だといえます。

学校にもある簡易焼却炉は、生殖障害や免疫制御などに影響を及ぼすダイオキシン(注7)（塩素系環境汚染物質）を排出しており、廃止が急がれねばなりません。

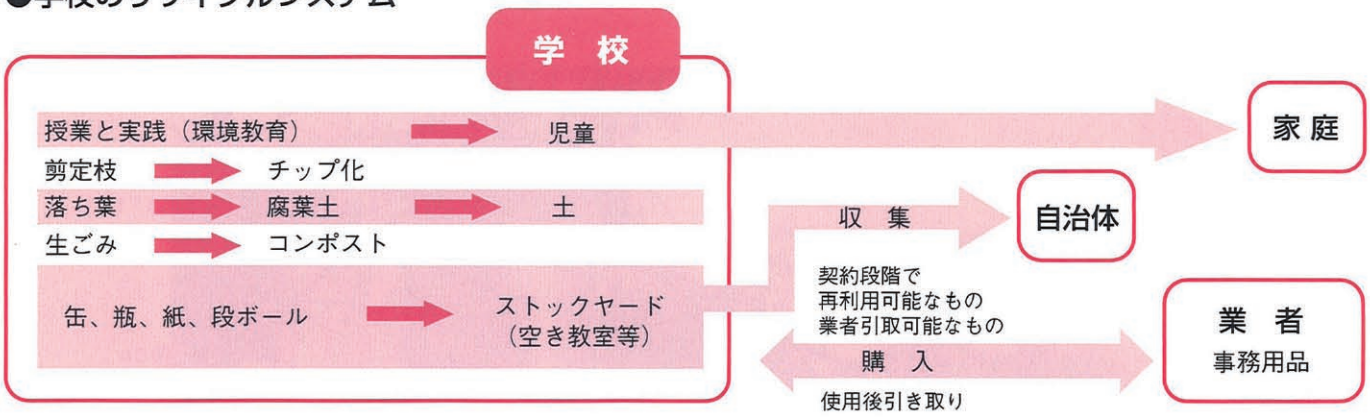
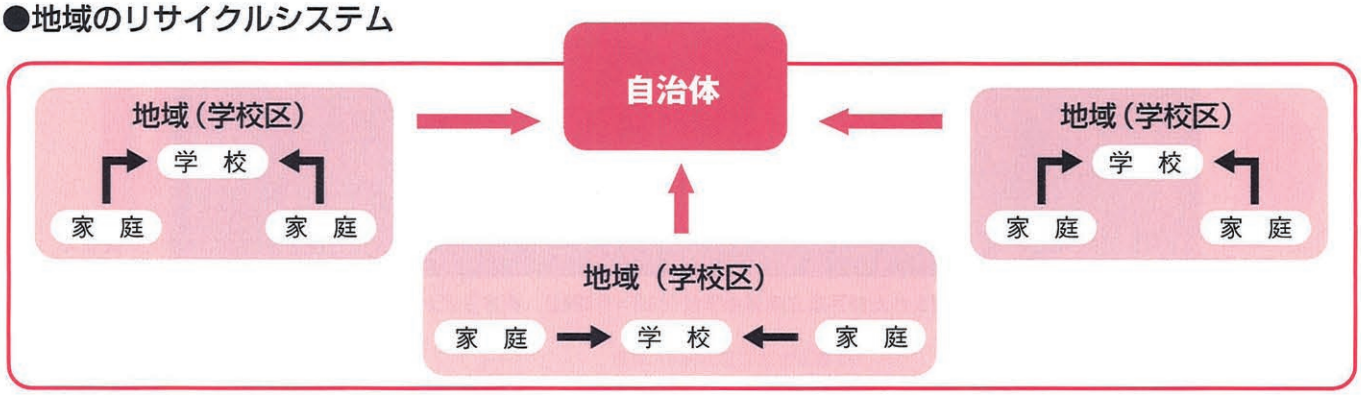
また、学校のリサイクルシステムを作り出していく必要もあります。環境にやさしい学校用品（エコ商品）の購入、使用後再利用可能な物品の購入など学校で使用する段階からシステムを考えていかなければなりません。缶、瓶、紙、段ボールなどの分別収集の徹底、空き教室などを利用したストックヤード。さらに、学校の樹木の剪定枝はチップにし、落ち葉は腐葉土。そして、学校給食などから出る生ごみはコンポストを利用して土にもどすシステムなど具体的な改善が求められています。

校庭の緑化には、地域の植生と連続した緑のネットワークを作り、在来種の虫・鳥・動物などの自然生態系に配慮することが必要です。

しかし、学校から排出される廃棄物だけを問題にするのでは不十分です。学校が、地域のリサイクルを考える拠点として機能していくことも必要です。

地域ぐるみで、「集めて燃やす」ことから、「集めて燃やさず資源化・商品化」への転換をはかり、環境重視の社会づくりに学校が拠点として重要な役割を果たすことが求められています。

●学校のリサイクルシステム



●地域のリサイクルシステム